

平成 30 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯山のそばによる元気な地域づくり事業
事業主体 (連絡先)	飯山そば振興研究会 ( )
事業区分	(6)イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,347,641 円 (うち支援金 : 3,270,000 円)

**事業内容**

(1)ソフト事業 (委託試験)

従来のそば栽培では、同一圃場での連作がほとんどであり、年々減収傾向にあるということから、輪作で省力化可能な作目としてソルガムが可能かどうか試験栽培に取り組む。

また、当地域におけるそばの二期作型が可能であるかどうか試験に取り組む。

- ・連作障害対策試験(ソルガム)20a
- ・そば二期作研究試験20a×2作=40a

(2)ハード事業

従来の刈取りは、他人に委託していたが適期刈取りが出来ず、品質低下・減収であったので、今回希望者を募り施設機械の整備に取り組んだ。

- ・小型コンバイン 1台
- ・乾燥機 1台
- ・籾摺り精米機 1台



【二期作試験そば食味検討会】

【目標・ねらい】

- ① 連作障害対策としてのソルガム適応試験
- ② そば二期作試験
- ③ 小型コンバイン・乾燥機等導入による適期収穫・乾燥調製

※自己評価 【A】

【理由】

・今回のハード事業によるコンバイン等の導入により、従来課題であった収穫時期が適期に実施でき単位当たり収量も目標を超えることが出来た。

## 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

### (1)ソフト事業

- ・ソルガム試験結果 今回の試験結果を見る限り、栽培時期のズレによる収量・品質の差異がみられるため、経済性のある作物としての取組みにつき結論を出すことは早計と考えられる。
- ・そば二期作試験結果 前作のそばが収量皆無になったことは、6月下旬から7月中旬の前作そばの開花時期が異常高温の為に訪花昆虫の蜂の行動が鈍かったために受粉が出来なかったと推測される。

### (2)ハード事業

- ・収穫時期については事前に北信農業改良普及センターそば担当者による圃場巡回指導会を9月12日に開催決定し、ほぼ予定通りの作業が出来、10a当たり収量も目標をクリアできた。

収穫面積 目標：665 a →実績：841 a 達成率(126%)

反当り収量 目標：50.52 kg →実績：52.8 kg 達成率(104%)

不耕作地解消面積 目標：130 a →実績：125 a 達成率(96%)

## 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① ソルガム試験については、飯山市管内で生産意欲のある生産者がいるので、今後は栽培に意欲的な生産者による組織化を図り、今回の試験で把握できなかった課題の整理と事業化に向けて取り組んで行くことが望ましいと考えられる。
- ② そばの二期作試験については、現状の技術・環境では難しいと思われる。今後は、品種選択と高収量栽培技術の研究を重ね、事業効果の生まれるように取り組んで行く予定である。
- ③ コンバイン(乾燥機稼働も含め)の効率稼働により刈取面積の拡大に取り組む計画である。
- ④ 収穫後の玄そばの劣化を防ぐために雪室熟成試験を実施したところ、「香り」「食味」ともに良好との評価を得たので、31年度以降については、6次化によるそば(麺)の販売に向けては、新そば収穫までの間は、豪雪地の良さを生かした「雪室熟成そば」として、そば店での提供に取り組む計画である。
- ⑤ そばの打ち手の育成を公民館と共催で取り組み、手打ちそばの製造に継続性を持たせる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある